

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年八月度 入選句 (投稿総数千七百二十八句・小中生投句数九百七十八句)

特選

選者 白井 静子

お兄ちゃん子供にかえる夏休み 大垣市

渡辺 百香(小六)

作者は六年生。お兄さんは中学生でしょうか、高校生でしょうか。

普段は気むずかしい顔をして口数が少なく、少し近寄りにくい感じがしているお兄さん。でも、夏休みとなると、ホースの水を掛け合ったりスイカを取り合ったり、花火をしてはしゃいだりと、無邪気なお兄さんに戻ります。作者も子供ですし、お兄さんもまだまだ子供です。お兄さんの天真爛漫な姿を発見し、一層親しみを感じたのでしょうか。

私だけ風あたらさないせんぷうき 大垣市 伊藤 瑛里(中二)

扇風機は、教室の北と南の壁に一台ずつ取り付けられています。首振りになると広い範囲の子が恩恵に預かります。しかし、それでも、扇風機の風の当たらない場所ができてしまうのです。扇風機が首を振るたびに、「あと少しこちに吹いて」と、その人たちは切実に願っていたことでしょう。暑い教室で頑張って学習している生徒の静と心の動、機械的に動く扇風機の動と無機能的な静の対比が想像され、とても面白い一句になりました。

夏の日を日なたで見守るおじぞうさん 大垣市 広瀬 和也(小六)

私たちは、暑い暑いと言って帽子をかぶったり日傘を差したり紫外線よけの手袋をしたりして、夏の日差しを防いでいます。

おじぞうさんは、そんな暑さの中でもしっかりと私たちを見守っていてくださるのですね。そのことに気づいた作者は、日なたで頑張るお地藏さんにとっても感謝したのだと思います。道ばたの、見過ごしてしまいがちな風景に心を寄せた、やさしい一句ができました。

秀逸

竹けずる音がひびいたデイキャンプ 大垣市 政井 菜々美(小六)

かき氷シロップなやみ白いまま 大垣市 宮田 彩那(小六)

かえり道にゆうどうぐもがとおせんぼ 大垣市 大倉 優舞(小四)

手をつなぎ家族みんなで夏祭り 大垣市 杉原 由唯(小四)

ぼんおどり必死にまねしてついでいく 大垣市 吉田 響(小四)

にわいつぱい水まきをして風をよぶ 大垣市 堀井 咲希(小四)

いきつぎのあいまにみえた入道雲 大垣市 奥田 璃央(小六)

せんぷうきくびふるほうについていく 愛知県刈谷市 佐藤 柚玲菜(四才)

ころもがえまえきたふくはちいさいよ 大垣市 しみず みれい(小二)

なつのかわとびこみたいたいいますぐに 本巣郡北方町 今橋 文也(小三)

入選

あついなかはいくづくりにはしづくり
 かきごおりブルーハワイをかけたいな
 すいかわりそこそこ今ださあたたけ
 すいかわり右だ左だおおさわぎ
 せん風き自分の声がとんでつた
 ゆかたきてモデル歩きでじまんする
 あめんぼう泳ぎが上手おしえてよ
 あわつぶがでてはまた消えソーダ水
 ねむったらねぞうがわるい熱帯夜
 夏の空 大きい雲が鳥のかさ

大垣市 土屋 菜奈(小六)
 大垣市 鈴木 沙綾(小四)
 大垣市 宮川 結妃(小四)
 大垣市 馬瀨 裕輔(小四)
 大垣市 西脇 楓華(小四)
 大垣市 立神 花芽里(小四)
 大垣市 武田 さくら(小六)
 大垣市 廣瀬 菜々香(小六)
 大垣市 村林 高德(小六)
 大垣市 田中 夕貴(小六)

入選

花火にも負けずにひびく大だいこ
 扇風機つかれた私に笑みくれる
 てづくりの水てっぽうはよくとんだ
 静かさがスリル満点きもだめし
 勉強中汗はふいてもまたたれる
 雲にのり飛んでみたいな夏の空
 夏の空見上げてできた背泳ぎが
 夏の日の木の下ちよつと幸せだ
 かぶと虫あそびにきてねぼくの家
 かぶとむしおおきくつよいぼくすきだ

大垣市 高橋 侑(小六)
 大垣市 安田 朱里(小六)
 大垣市 田中 優大(小二)
 大垣市 白木 海帆(小六)
 大垣市 川島 裕美(小六)
 大垣市 稲川 晶子(小六)
 大垣市 戸田 純奈(小六)
 大垣市 北島 奈々(小六)
 大垣市 高田 愛翔(五才)
 大垣市 くりた はやと(四才)

選者吟

モザイクを積んで崩して遠花火

白井 静子